

# 2017 CSR & Environmental Report 環境・CSR報告書

と も に 育 む



# グローバルな事業展開を通じて 持続可能な社会の実現に貢献していきます

## グローバル企業として CSR 経営を推進

阪和興業は、経営理念として「時代と市場の変化に迅速に対応し、『流通のプロ』として顧客の多様なニーズに応え、広く社会に貢献する」ことを掲げ、経営の基本に置いています。

当社は設立時から独立した「ユーザー系商社」として発展してきました。「ユーザーのために」「ユーザーとともに」を第一に考えながら、常にユーザーの立場に立ち、その「満足度」を追求し、お役に立てるように考えながらともに歩んでいける事業を展開しています。

スピード化、ニーズの多様化が進む今日の市場に

おいて、事業のグローバル化が進む当社では、日々のビジネスを通じて、持続可能な社会の実現と、地球環境の保全に貢献することを目指します。

そのため、2016年度からスタートした第8次中期経営計画では、「Sへのこだわり - STEADY, SPEEDY, STRATEGIC -」～中長期を見据えたSUSTAINABLEな収益体質と経営基盤の強化～をテーマに掲げた中期経営計画をスタートしています。①既存の事業領域からの収益の確保を通じた当社本体のSTEADY(着実)な成長、②国内外93社からなるグループ企業や国内外での戦略投資からの投資効果のSPEEDY(迅速)な実現、③将来を見据えたSTRATEGIC(戦略的)な投資の継続による追加収益の確保の3点を目指します。また、財務規

律やグループ管理体制、コーポレート・ガバナンス体制の強化・充実など、経営基盤の強化にも努め、事業規模の拡大やグループ会社の増加に対応したガバナンス体制を構築してまいります。

さらに当社では、各事業部門におけるリスク分析の展開と工程管理の徹底的な実施による業務品質の向上を目的としたHKQC (Hanwa Knowledge Quality Control) の推進を継続します。HKQCには、阪和グループのこれまでの知の蓄積を利用した業務品質の向上と、グループの知そのものの継承・発展という2つの側面があります。業務品質の管理方法の標準化を通じて、各部署でのリスク管理を適切にまた、的確に実施することで損失の発生を未然に防ぎ、収益を漏らさない体制を確立していきます。また、グループ内に蓄積された有形・無形の知識や膨大な知恵が体系化されることで、グループの知が全体の共有財産になります。HKQCを推進することで、グループ内で伝承された知覚を研ぎ澄まし、ビジネスの機会を拓き、潜在するリスクを嗅ぎ取る力を向上させ、ユーザー系商社としての機能のさらなる向上を図ります。

また、阪和グループの人材と組織の基本コンセプトをProfessional & Globalとし、ユーザー系商社として顧客第一主義の当社の立ち位置を明確にしたうえで、メーカー・サプライヤーからユーザーに至るバリューチェーンの各段階の効率化や最適化を通じて、収益機会を確実にとらえるとともに、阪和グループの自律的な成長と事業の多様性の確保を目指します。

## 総合リサイクル事業で 循環型社会形成に貢献

当社は創業以来、鉄鋼・非鉄金属などのビジネスを中核事業として展開する中で、リサイクル事業を早くから手がけてきました。

鉄鋼資源の循環として鉄のリサイクル事業をはじめ、近年では世界各国から電子基盤屑など非鉄金属スクラップを輸入し、金、銀、銅など有用金属を再生利用するための事業体制を整えるとともに、グロー

バルな展開を積極的に進めています。また、古紙や廃プラスチックなどの再生資源 (RPF) の活用、廃棄物の再資源化やヤシ殻 (PKS) などのバイオマス燃料による化石燃料の代替エネルギー利用促進などにも取り組んでいます。

メーカー、ユーザー双方のニーズに応えながら、循環型社会システムへ寄与するとともに、限られた資源・エネルギーの有効活用のために、当社は今後も総合リサイクル事業を推進していきます。

## 企業の繁栄が社会の繁栄に つながるように

創業者 北二郎は「商社は人なり」を信条とし、「企業の繁栄と社員の幸福は車の両輪である」を経営の根幹に置き、人づくりと良好な職場作りに取り組みました。この精神は現在に継承され、会社と社員が共鳴し合い、目標に向かって果敢に挑戦する伝統を培ってきました。

また、長年にわたり社会貢献事業として、前途有為な学生を支援するために「公益財団法人 阪和育英会」を通じ、奨学事業を実施してきました。1957年の設立以来、阪和育英会からこれまでに千人以上の奨学生が巣立ち、社会のさまざまな分野で活躍されています。

2016年4月に発生した熊本地震への対応については、福岡市にある九州支店を中心として現地情報を収集し、備蓄する飲料水や食糧品など必要物資を直ちに被災先にお届けするとともに、当社グループ会社と併せて義援金を拠出いたしました。引き続き、九州支店を中心として必要に応じた支援を続け、事業活動を通じて地域のお取引先のニーズにお応えしていくよう努めてまいります。

「企業は持続可能な循環型社会の一員である」ことを念頭に、商社としての本業を生かし、国内外での事業活動に今まで以上に積極的に取り組んでいきます。同時に、グローバル展開する企業としてCSR経営を推進し、地球環境を守り、企業価値の向上を図り、社会に貢献する企業としての道を歩み続けます。



阪和興業株式会社  
取締役会長

北 修爾

阪和興業株式会社  
代表取締役社長

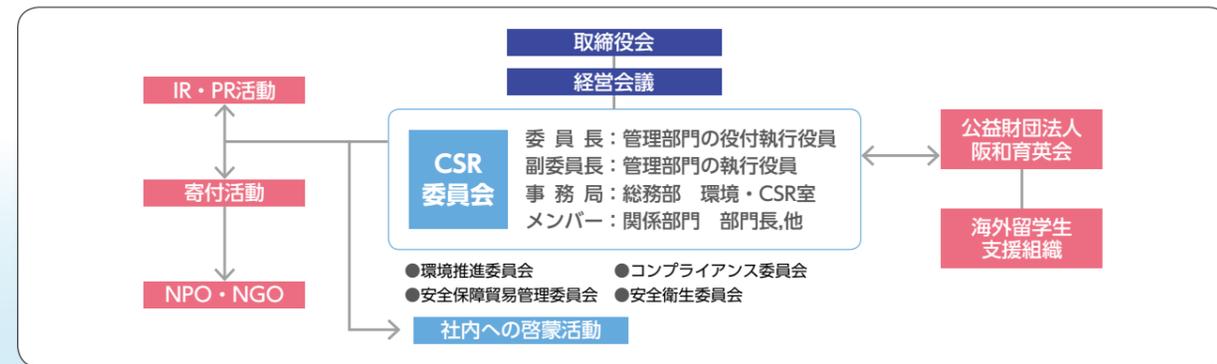
古川 弘成

# CSRの基本的な考え方

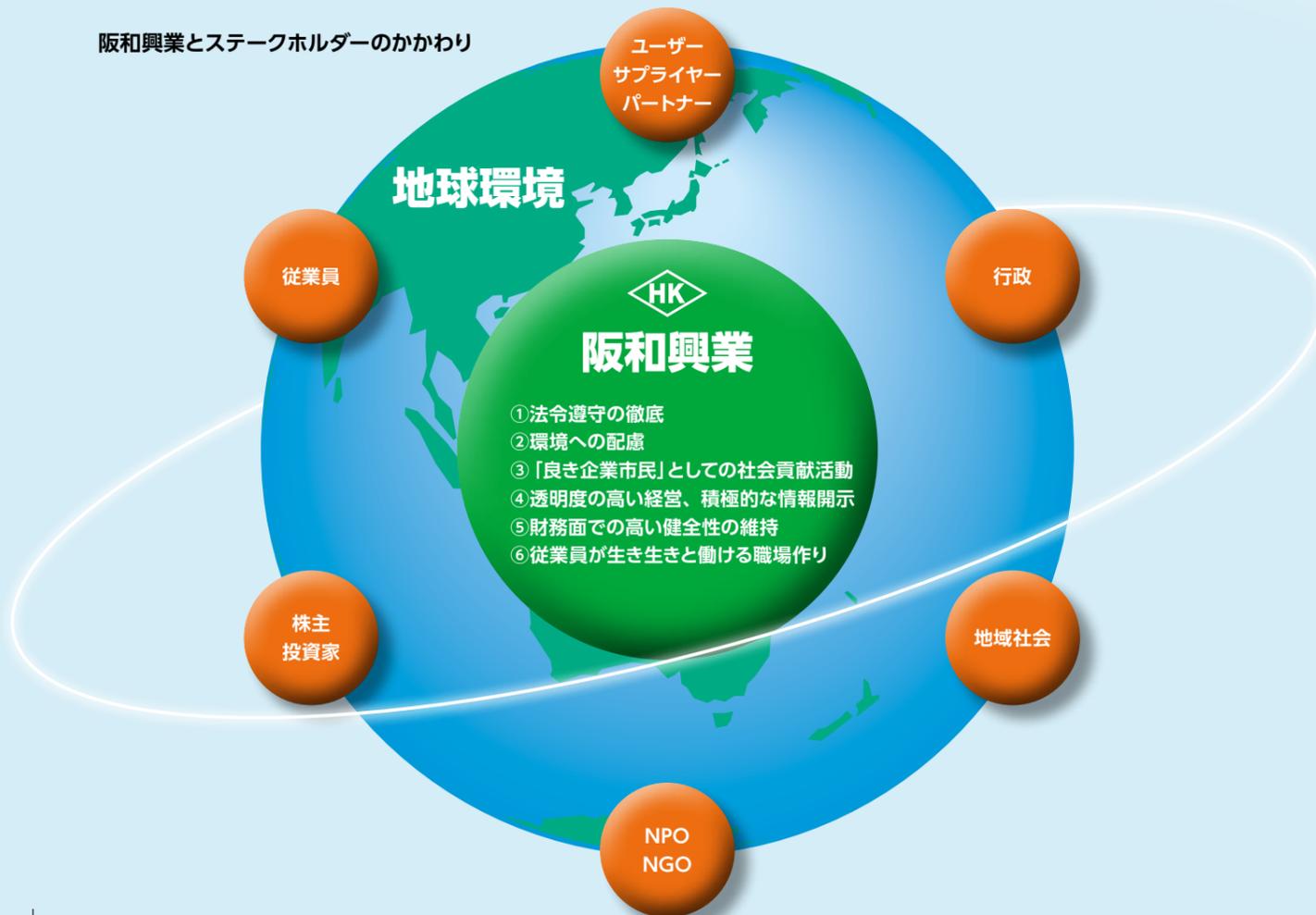
当社のCSR（企業の社会的責任）は、①法令遵守の徹底、②環境への配慮、③「良き企業市民」としての社会貢献活動、④透明度の高い経営、積極的な情報開示、⑤財務面での高い健全性の維持、⑥従業員が生き生きと働ける職場作りという6つの基本的考え方で構成され、経営そのものと位置付けています。

CSR経営推進のために、当社では管理部門の役付執行役員を委員長とするCSR委員会が、コンプライアンス委員会、環境推進委員会、公益財団法人 阪和育英会などの組織を包括し、有機的な運営を行っています。

国内外の企業は、経済活動のグローバル化とともに、持続可能な発展を実現することが国際的に求められています。今後は国際規格「ISO26000」を視野に入れ、当社も国際社会の中の一企業として発展する努力を続けていきます。



阪和興業とステークホルダーのかかわり



## 目次

### TOP MESSAGE

グローバルな事業展開を通じて  
持続可能な社会の実現に貢献していきます ..... p.2

### CSRの基本的な考え方

..... p.4

特集1 **HKQCの運用で企業価値のさらなる向上を目指します** ..... p.6

特集2 **阪和グループの社会貢献活動 公益財団法人 阪和育英会** ..... p.8

### 阪和興業の環境ビジネス

#### 都市鉱山 (Urban Mine) への挑戦

鉄のリサイクル	p.10
鉄のリユースシステムを確立	p.11
ステンレスのリサイクル	p.11
非鉄金属のリサイクル	p.11
アルミのリサイクル	p.11
海外における非鉄金属スクラップ事業	p.12

#### 環境配慮商材

緑化舗装用ブロック「グラスサム」	p.12
スチール製パレット	p.12

#### 生物多様性への配慮

木材輸出の取り組みで優良事業者表彰を受賞	p.13
森林保全と商品利用充実のために FSC®-CoC、SGEC-CoC認証を取得	p.13
水産資源保護に向けてMSC-CoC認証を取得	p.13

#### 再生可能エネルギー関連事業

木質系バイオマス燃料	p.14
リサイクル燃料RPF	p.14

#### その他のリサイクル

.....	p.15
-------	------

### 安全・安心への取り組み

安全協議会を通じて協力会社と共に無事故・無災害を目指しています	p.16
徹底した品質管理で安全・安心な物流を支えるスチール製パレット	p.17
独自の厳しいチェック体制で食品の安全・安心を守ります	p.18
遊戯・産業機械の徹底した安全管理に努めています	p.18
国内グループ会社の取り組み	p.19
海外コイルセンターの取り組み	p.19

企業統治 ..... p.20

より良い職場作りへの取り組み ..... p.22

「良き企業市民」としての社会貢献活動 ..... p.24

環境マネジメント ..... p.26

会社概要 ..... p.31

# HKQC の運用で企業価値のさらなる向上を目指します

HKQC (Hanwa Knowledge Quality Control) は2014年から各営業部門への聞き取りから始まり、2015年12月、監査部に専門部門を設置し、本格的な活動を開始しました。社員個々人の意識づけによるミス軽減、ベストプラクティス抽出による業務効率化を目的としたHKQC活動により、メーカー、ユーザーの信頼を高めていきます。

## 3つのSによる長期的な成長戦略

阪和グループでは、流通の機能強化や高度化を目指し、「Sへのこだわり—STEADY, SPEEDY, STRATEGIC—」をテーマとした2016年度から2018年度までの3年間を計画期間とする第8次中期

計画を策定しました。初年度3月期に経常利益が中期経営計画の最終年度目標を上回ったことで、計画期間を2016年度から2019年度までの4年間へ見直しを行いました。



## 阪和グループの企業戦略の基本フレームとコンセプト

阪和グループのあるべき姿は、ユーザーのために、ユーザーとともに成長する「ユーザー系商社」であることです。その点をさらに明確にしたものが、右の図にある基本フレームとコンセプトです。Professional & Global、企業活動の多様化、グループ体経営の強化を企業戦略の中心に据えました。

そして、この阪和グループの企業戦略を有機的に結合するのが、HKQC活動です。



## HKQC の取り組みで損失を防ぎ、収益力を向上

HKQC 活動にあたり、各部門にヒアリングを行い、従来のリスク・コントロール・マトリックス (RCM) と統合した「HKQC・RCM 統合版」を作成するとともに、「業務フローチャート」の見直しを行いました。社内で「見える化」し、共有することで、チェック機能が働かないことによる損失を防ぎ、収益力を向上させます。また、業務プロセスの改善と向上を目指すとともに、HKQC 活動を通じた人材と組織の成長、業績志向の企業文化が形成、伝達されていくことが期待されます。

2016年10月～2017年2月にかけて、HKQC への意識を高めるために「HKQC キックオフ大会」を開催しました。大会では、営業部門、管理部門ごとにすべての社員(派遣社員含む)が参加し、HKQC の最大の目的である、「営業の知・経営管理の知の共有」のためにグループディスカッションなどを行いました。

また、グループ会社では、自主的なHKQC大会の実施が検討されています。



- ユーザー系商社としての進化
- 業務プロセスの共有と改善・向上
- イノベーション
- 人材と組織の成長
- 業績志向の企業文化の形成と伝達

### 阪和のDNA 知のらせん

阪和の「知」により業務品質を管理するオペレーションの工程分析・品質管理

阪和の「知」そのものの品質を管理する 阪和の知の定着と共有の仕組み

営業部門、管理部門、国内外グループ会社は、HKQC シート及び業務フローチャートなどによる自主チェックを行います。監査部は定期的にHKQC 運用状況の確認を行います。

### ●各部門のチェック体制

- 事務担当
- 営業担当
- 課長
- 部長
- 理事
- 担当役員
- 統轄役員



HKQCキックオフ大会

# 阪和グループの社会貢献活動 公益財団法人 阪和育英会

## 「我が国社会に 有為な人材を育成したい」

創業者 北 二郎



公益財団法人 阪和育英会は、阪和興業株式会社  
の創立10周年記念事業として1957年4月に設  
立されました。阪和興業の創業者 北 二郎は、自身  
が苦学した体験があることから、奨学金を出して経  
済的支援をし、「我が国社会に有為な人材を育成し  
たい」と念願して、当時会社の資本金がわずか1億  
円の時に1,000万円を投じて当会を設立し初代理  
事長に就任しました。2017年4月をもって設立60  
周年を迎える当会は、今日までに1,100名を超える  
奨学生に奨学支援をすることができました。

従来の貸与型の国内奨学金に加え、2015年度  
からは1人100万円の給付型の海外留学奨学金

制度を発足させたのも、国際化がますます進む  
中、一人でも多くの意欲と能力のある学生が海外  
留学を通じて視野を広げ、知識を磨き、世界各  
国の優秀な若者に伍していける人材になってほし  
いとの思いからです。わが国は経済的には豊かな  
社会になっていますが、他方で少子化による人口  
減少、経済格差の拡大、社会道徳の退廃、教育  
水準の低下など、教育の再生についての議論が沸  
騰しています。次代を担う若い人たちが社会でお  
おいに活躍できるよう、阪和育英会は民間の奨  
学財団としての特色を生かし、さらに事業を発展  
させてまいります。

### 阪和育英会 奨学生からのコメント

#### 夢叶い教師に 天職に会えた

立命館中学校・高等学校 英語科教師  
山下 沙理さん



大学時代は阪和育英会の奨学生として貴会にご支援を  
いただきながら、教員になる夢を持ち勉学に励みました。現  
在はその夢が叶い、学校現場で働かせていただいています  
。教師の努力や力量が如実に表れるのが授業の面白さ  
であり、同時に苦しいところでもあります。一生懸命工夫  
を凝らした授業に、生徒が目を見張って取り組んでくれた  
時は、達成感と力が湧きます。また、学力を伸ばす以前に  
大切にしているのが、「心」を育てること。他人を思いやる  
心、自分の弱さに打ち勝つ心、そうした豊かな心を持って  
初めて多様な人間関係を構築し、社会の中でさまざまな  
人に支えられ、夢を実現できると思うからです。そのため  
、授業だけでなく、時間を見つけては生徒一人ひとりと話を  
し、信頼関係を築くよう心がけています。現在、教師とい  
う天職に会えた幸せを日々感じながら過ごしています。

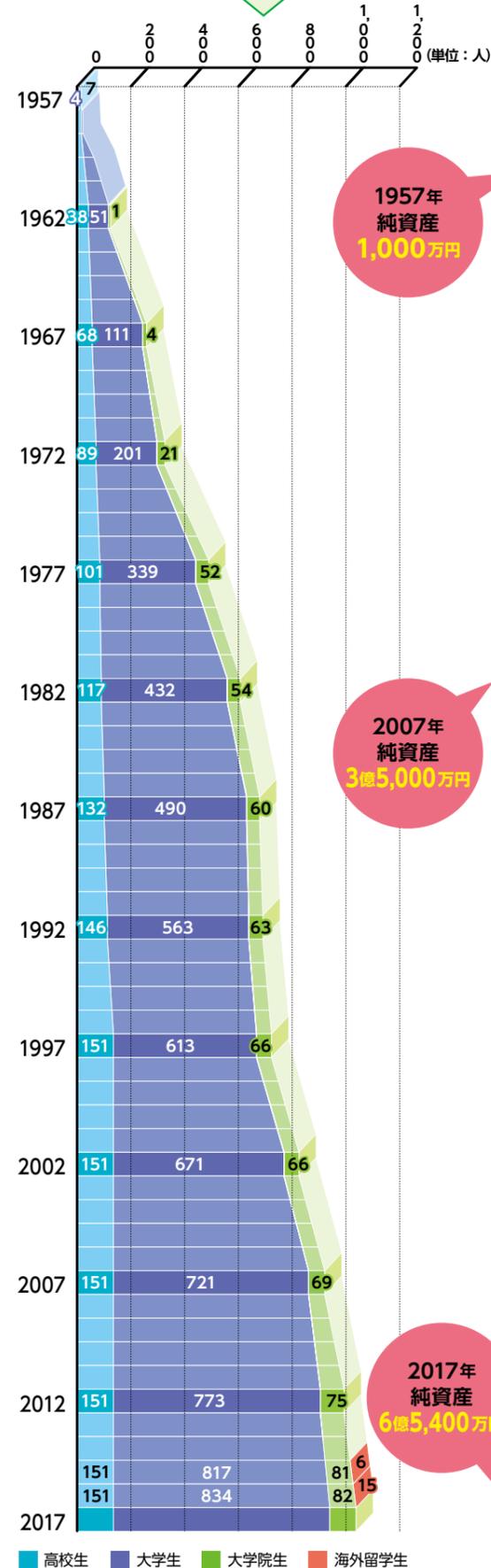
#### 留学を通して 世界を体感

大阪大学 外国語学部  
廣瀬 絢音さん



私は外国語学部3年の時、英語圏への交換留学を決意し  
たのですが、費用が高額で留学をあきらめかけていまし  
た。しかし、貴会の2016年度海外留学奨学生に選出し  
ていただき、米国ニューヨーク州のナザレス大学へ1年  
間留学することができました。留学前の準備金のご支援  
も助かりましたし、また、留学期間中におきましても、月  
1度の育英会事務局への学業報告が、自身の目標設定  
、達成度を確認することとなり、初心を忘れず励むことが  
できました。  
海外留学は学業面だけではなく、世界中から集まる学生  
と出会う機会を与えてくれ、とてもいい刺激を受けまし  
た。貴会の支援を受け、一人でも多くの方が海外留学を  
通じて世界を体感し、自身を変える大きな一歩になるこ  
とを祈っています。

### 奨学生の内訳と推移



1957年  
純資産  
1,000万円

2007年  
純資産  
3億5,000万円

2017年  
純資産  
6億5,400万円

### 阪和育英会ヒストリー

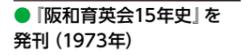
1957年  
阪和育英会 設立



1973年  
『阪和育英会15年史』  
を発売



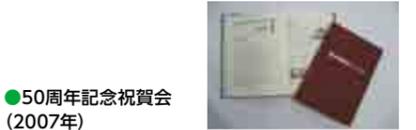
1978年  
奨学生累計人数が  
500名を超える



2010年の奨学金 (貸与)  
大学院生 70,000円/月  
大学生 50,000円/月

『阪和育英会五十年史』  
を発売 (2007年)

2011年  
公益財団法人  
の認定を取得



2015年  
海外留学奨学金  
制度始まる



海外留学奨学金 (給付)  
大学院生・大学生 70,000円/月  
+ 留学準備金 150,000円



奨学生は留学先での様子を写真とともに報告して  
くれます。写真は2016年度海外留学奨学生の  
大阪市立大学 理学部 山中祐貴さん (前列中央)

2017年



海外留学奨学生内定式 (2017年)

60周年を迎える

■ 高校生 ■ 大学生 ■ 大学院生 ■ 海外留学生

# 都市鉱山 (Urban Mine) への挑戦

## 鉄・非鉄金属のリサイクル事業

鉱物資源のほとんどを輸入に依存する「資源のない国」日本にとって、鉄・非鉄金属などの有用金属のリサイクル事業は資源の有効利用として、大切な役割を担っています。阪和興業は鉄・非鉄金属のリサイクル事業に積極的に取り組み、いわば「都市鉱山」の活用に内外に豊富な実績を誇るとともに、循環型社会の形成に貢献しています。



ステンレススクラップの集荷と供給を行う阪和メタルズ株式のスクラップ専用ヤード

阪和興業の  
環境ビジネス

### 鉄のリサイクル

当社の鉄鋼事業は、建築、土木、自動車、機械、家電など産業界の幅広い分野のユーザーに鉄鋼製品を販売する動脈と、鉄スクラップ事業や中古鋼材のリユースの静脈という二つの流れがあります。

動脈・静脈の流れをスムーズにするために鉄スクラップ事業は、鉄鋼メーカーのニーズに合致したアレンジ能力を高め、迅速に対応しています。排出される使用済み鉄鋼製品は、協力関係にあるスクラップ業者との連携により、高付加価値スクラップとして生まれ変わり、ユーザーである鉄鋼メーカーに納入します。



阪和エコスチール株式の敷鉄板は、災害地の道路復旧作業時の足場などにもレンタルされるなど、さまざまな工事現場で活躍しています

### 阪和興業における鉄の循環図



### 鉄のリユースシステムを確立

「鉄にもう一度活躍の場を！」をモットーとする当社グループ会社の阪和エコスチール株式は、H形鋼や鋼矢板などを中古鋼材としてリユースしています。コストパフォーマンスの良い中古鋼材を求めるユーザーは年々増えており、阪和エコスチール株式はジャスト・イン・タイムで、ユーザーのご要望にお応えするとともに、限りある資源の有効利用に貢献しています。

当社はこれからも鉄スクラップのトータルリサイクル、リユースシステムを円滑に進め、鉄資源の有効活用に貢献していきます。

### 非鉄金属のリサイクル

グループ会社の昭和メタル株式では、ステンレス鋼、特殊鋼メーカー向けにチタンスクラップとニッケルスクラップの回収から品質確認、選別・分類、出荷、納入までのプロセスを一貫して行っています。当社は昭和メタル株式とともに、「グローバルメタルリサイクラー」として、あらゆるニーズに適応し、きめ細かなレアメタルスクラップ事業を展開しています。



回収されたチタンスクラップ

### ステンレスのリサイクル

グループ会社の阪和メタルズ株式を中心に、ステンレススクラップの集荷とスクラップ商品の安定供給に努めています。製品としての役目を終えたステンレスを、阪和メタルズ株式でスクラップとして回収し、厳密なチェックを経て、スクラップ商品として鉄鋼メーカーに供給しています。

### アルミのリサイクル

当社は、2012年8月に製鋼用アルミ脱酸材及びアルミ缶リサイクル加工メーカーの正起金属加工株式（以下正起）の株式を取得しました。脱酸材事業の確立によって、高炉製鉄メーカーの転炉での脱炭素・脱酸素工程で使用されるアルミ塊を供給しています。

また、使用済みのアルミ缶を回収し、アルミ缶以外の異材・異物を除去、溶解・成分調整を行った再生塊をメーカーに供給しています。阪和流通センター名古屋株式、正起での生産で原料集荷・加工・製品販売をさらに推進していきます。



Can to Can製品「アルミ缶再生塊」

# 生物多様性への配慮

生物多様性の保全・持続可能な利用の重要性を認識し自然環境への配慮に努めています。

## 木材輸出の取り組みで 優良事業者表彰を受賞

この度、当社は農林水産省より平成28年度農林水産物の輸出に取り組む優良事業者表彰食料産業局長賞を受賞しました。本表彰は農林水産物の輸出を行う優良な取り組みを広く紹介することで、農林水産物の輸出促進を図ることを目的に平成28年度より新しく創設されました。



当社では、2006年から間伐材輸出の取り組みを開始し、現在では年間およそ15万㎡の木材を中国や台湾などに販売しています。木材の輸出は、販売先の多様化による木材価格の底上げや雇用の確保を通じた地域経済の活性化に寄与するだけでなく、森林整備の促進を通じた国土の保全や森林による二酸化炭素吸収促進にも貢献しています。今後も、商社機能を活かし内外の市場開拓を進め、木材輸出を通じた地域活性化や森林整備の促進に寄与していきたいと考えています。

## 森林保全と商品利用充実のために FSC®-CoC、SGEC-CoC 認証を取得

当社はFSC®(Forest Stewardship Council®)、及びSGEC(Sustainable Green Ecosystem Council)森林認証制度によるCoC認証を取得しています。SGEC森林認証制度は日本独自の認証制度で、森林の保全及び持続可能な森林経営を促進することで、森林・林業の再生を目指すことを目的としており、CoC認証は加工・流通過程で非認証由来の製品と混ざらないよう管理されていることを証明しています。当社はこれらの認定により、環境に配慮した木材製品を充実させることで、持続可能な森林経営の促進に寄与していきたいと考えています。



SGEC-CoC認証書  
森林認証

## 水産資源保護に向けて MSC-CoC 認証を取得

国際的非営利団体であるMSC(Marine Stewardship Council)の運営するMSC漁業認証は、持続可能で適切に管理され、環境に配慮した漁業を認証する制度で、  
①水産資源が持続可能なレベルに維持されている。  
②生態系への影響が最小限に抑えられている。  
③有効な管理システムがある。  
という3つの原則によって認証されます。当社は、MSC認証を受けた水産物の流通を確実なものとするためのMSC-CoC認証を取得しています。



※CoC(Chain of Custody)認証とは、製品の製造、加工、流通の全ての過程において、認証物が適切に管理され、認証製品でない製品の混入や、ラベルの偽装がないことを認証することです。

当社原料供給先が製造するMSCラベル付製品

漁業認証

## 海外における非鉄金属スクラップ事業

当社は4つの海外拠点HANWA THAILAND CO., LTD.、HANWA SINGAPORE (PRIVATE) LTD.、HANWA CO., LTD. LONDON BRANCH、HANWA AMERICAN CORP.を中心に、海外での非鉄金属スクラップ事業を展開しています。輸出入、三国間貿易ではパーゼル条約を遵守しており、国内外のユーザーへ再資源として安定した供給を行うとともに、環境負荷低減に寄与しています。2013年、東南アジアでの非鉄金属リサイクル事業の中心となるPT. HANWA ROYAL METALSをインドネシアに設

立したことで、東南アジア内での非鉄金属スクラップの流通をさらに強化しています。

当社では非鉄金属スクラップの品質、供給の安定化を図るために、高い専門性を持つ人材を派遣し、サプライヤーの拡大に努めています。2013年はレバノン、イスラエルをはじめとする中東地域やバングラデシュ、南米のホンジュラスなどでも取引を開始しています。近年は日本企業の海外進出に伴うASEAN各国での工場建設が相次いでおり、工場へのジャストインタイム機能を一層強化しています。



### パーゼル条約に基づき、グローバルビジネスの道筋作った阪和興業

銀・銅を含む半導体の製造工程で発生するスラッジ(汚泥)をパーゼル条約に基づき、最初に国際間ビジネスにしたのは阪和興業です。マレーシアのM社のスラッジを日本、マレーシア両国当局の認可を受け、日本の精錬会社に持ち込み、銀・銅の再生に貢献しました。

# 環境配慮商材

環境負荷の低減を常に考慮し、環境や人体に影響の少ない素材、長寿命化、高耐食性の素材などを取り扱うことで汚染の予防に努めています。

阪和興業の  
環境ビジネス

## 緑化舗装用ブロック「グラスサム」

当社は、自社の重量物輸送車駐車場の緑化を率先して実現するため、(株)日建設計シビル、揖斐川工業(株)両社と協力し、大型車両の駐車に耐え得る緑化舗装用ブロック「グラスサム」を開発、販売を進めています。2012年10月、両社と共に「緑化路面形成用ブロック及び該ブロックを敷設した緑化路面」として特許を取得しました。



阪和流通センター名古屋棟のグラスサムを使用した緑化駐車場

## スチール製パレット

当社は商社機能を生かし、国内ではスチール製パレットメーカーへ原材料を供給し、海外では製品を製造するシステムを構築し、積載効率が良く、輸送部品にフィットさせた製品を国内外の物流業者へ提供しています。今後は、グローバル調達を行う国内製造メーカーの要望に応えるために、ASEAN、インドなどの部品製造拠点での製造体制を整えていきます。



スチール製パレット

# 再生可能エネルギー関連事業

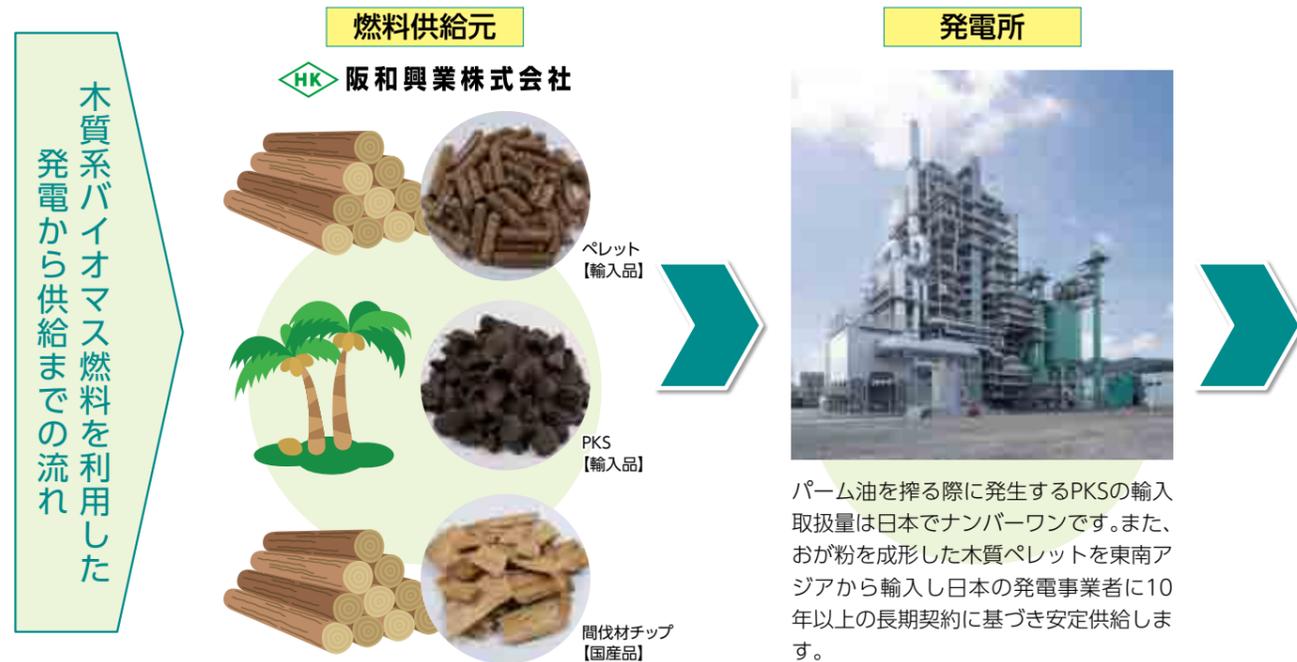
阪和興業の  
環境ビジネス

当社はバイオマス燃料の事業活動を通じ、新たなエネルギー創出を支え、CO<sub>2</sub>排出量削減に貢献するなど、地球環境保全に配慮しています。

## 木質系バイオマス燃料の安定供給で バイオマス発電による電力供給を支えています

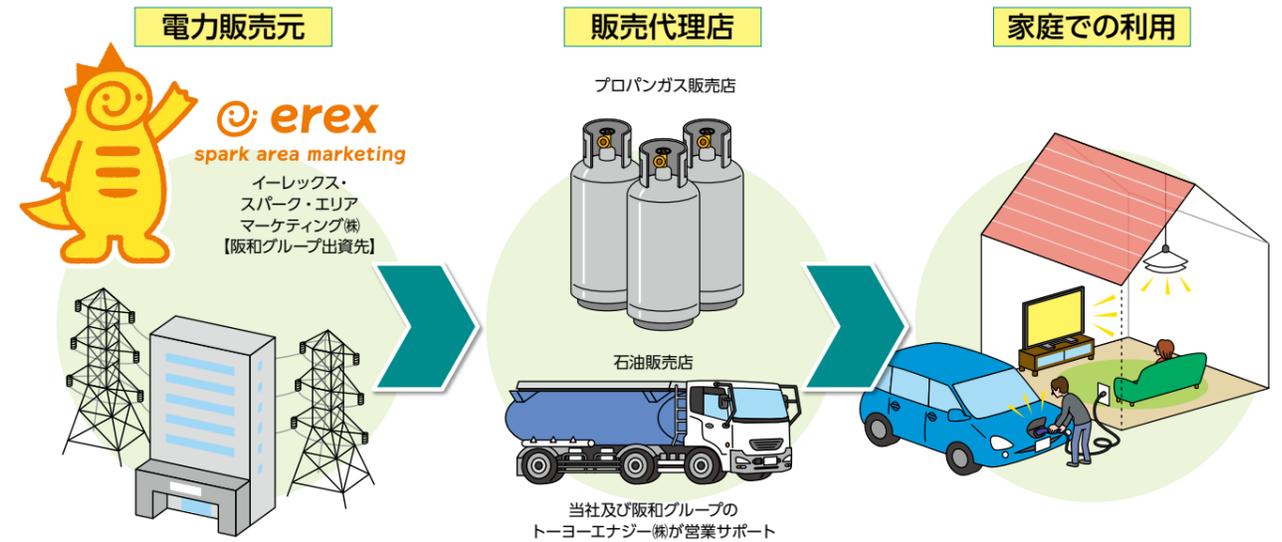
当社ではPKS（パームカールシェル）、林地残材、欧米、東南アジアのウッドペレットを主軸とした木質系バイオマス燃料を取り扱っています。再生可能

エネルギーの中でもバイオマス燃料による発電は、天候に左右されず24時間365日可能なため、電力供給のための安定した電源といえます。



### 新エネルギー室 福沢大五郎

2012年以降、再生可能エネルギーの買取制度を活用したバイオマス発電所の新設が相次いでいます。一方、2016年4月より電力市場は完全自由化され家庭で使う電気の購入先も自由に選べる時代になっています。新エネルギー室では「東南アジアの森林から家庭のコンセントまで」をモットーに、発電用木質燃料の輸入販売、新電力やバイオマス発電所への事業参画、プロパンガスや石油の販売チャネルとの協業を通じ、クリーンな電力の供給に貢献しています。



電力の完全自由化に先立ち、新電力の老舗イーレックス(株)、米国の新電力スパークエナジーと合併でイーレックス・スパーク・エリアマーケティング(株)を設立、阪和グループが石油やプロパンガスを卸している販売店様と協業して、一般家庭向けの電力を販売しており、お客様は3万件を超えました。

## リサイクル燃料 RPF

当社は2003年にRPFの取り扱いを開始し、現在のRPF年間取扱量は12万トンを超えています。全国各地の協力メーカーからの調達ネットワークに加えて2015年にRPFメーカーの西部サービスグループ（西部サービス(株)、(有)アルファフォルム）が阪和グループに入ったことで安定した供給体制を構築しています。

リサイクル燃料であるRPFの普及により化石燃料の消費削減、環境負荷低減に寄与しています。



## その他のリサイクル

### ● 古紙

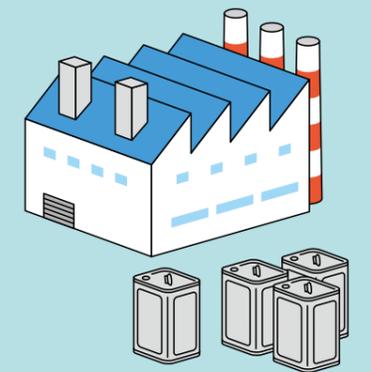
当社は、新聞、ダンボールなどの一般古紙から、ミルクカートンなどの上級古紙までリサイクル可能な幅広い古紙を30年にわたって国内製紙メーカーに販売しています。近年ではオフィス系古紙（シュレッド品）の取り扱いや、成長著しい東南アジア諸国への古紙輸出にも取り組んでいます。また、ミルクカートン古紙を再利用した環境に優しい梱包資材も扱っています。



オフィス系古紙

### ● 再生重油

使用済みの自動車のエンジンオイルや工業用潤滑油を原料として製造される「再生重油」を、利用可能なユーザーに販売しています。主にアルミ溶解、鉄鋼関連の工場で化石燃料のA重油やC重油の代替燃料として使用されています。



# 安全・安心への取り組み

多岐にわたる当社のビジネスにおいて、私たちはステークホルダーの皆様へ、安全・安心をお届けする義務があります。そのために徹底した管理体制を整えています。

## 鉄鋼事業 安全協議会を通じて 協力会社と共に無事故・無災害を目指しています

阪和グループは、全国100社以上のファブリーケーターと協力し、ゼネコンから工事を請け負っています。お客様、協力会社のニーズに応えるために、請負体制を充実することに注力するとともに、徹底した安全施策を展開しております。1999年4月に発足した当社の安全協議会は、東京・東北、名古屋、大阪の3拠点にそれぞれ設置、阪和グループ及び131社の協力会社で構成されています(内訳は東京・東北61社、名古屋23社、大阪47社)。

安全協議会では、円滑な工事遂行を目的に、労働災害防止のための総合的な安全施策を協議しています。



安全大会の様子(東京・東北)



安全祈願の様子



安全大会の様子(名古屋)



安全パトロールの様子

## 徹底した品質管理で安全・安心な物流を支える スチール製パレット

当社は、積載効率が良く、輸送部品にフィットさせたスチール製パレットを国内外の物流業者へ提供しています。当社が取り扱っているスチール製パレットは、主に中国など海外の協力工場で作られています。ユーザーへ安全で安心な製品を提供するために、当社では海外の協力工場と連携した徹底した品質管理を行っています。

特に材料面と塗装面においては、取引先のパレットメーカーの担当者とともに検証・評価・改善取り組みを実施し、横展開しました。特に2007年以降、取引先とともに各工程の品質管理体制フロー構築の取り組みを進め、現在ではしっかりと品質管理作業標準に基づいて生産を実施して、品質の維持・継続に努めています。



スチール製パレットの完成品



協力工場



協力工場内の様子



各工程の品質管理を工場内に提示

### スチール製パレットができるまで

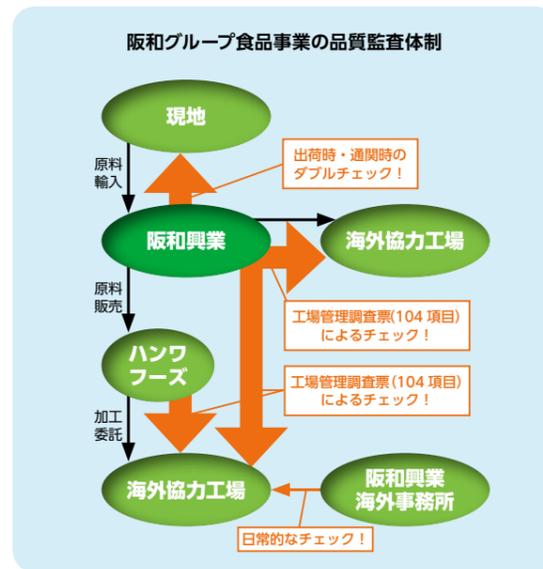


食品事業

独自の厳しいチェック体制で  
食品の安全・安心を守ります

当社食品事業では、ユーザーのニーズに沿った加工を、品質・衛生管理で優れた中国、ベトナム、インドネシア、タイの協力工場で行っています。当社食品品質管理室では、「食品部門品質管理規定」「食品部危機管理マニュアル」などによる品質管理、検査体制を確立しています。

グループ会社のハンワフーズ(株)は、当社の厳しい検査を通過した原料を使用し、同社の品質管理室と連携して同社オリジナル商品を含む加工を海外協力工場で行い、量販店や回転寿司チェーン、食品問屋などに販売しています。



機械事業

遊戯・産業機械の徹底した安全管理に努めています

当社機械事業では、遊戯機械、産業機械を取り扱っています。遊戯機械はレジャー施設での集客力アップを支えるとともに、欧米メーカー各社との連携を深め安全で安心な機械の納入に努めています。産業機械は、各種産業機械メーカーとの連携により、より安全で安心な機械の納入はもちろん、ユーザーの設備投資への万全のサポート体制を整えています。

2016年7月1日、万博公園(大阪・吹田市)にあるEXPOCITY内に、当社が設計・製作・施工を担当した、地上高123m(国内最大級)の大観覧車「REDHORSE OSAKA WHEEL」が完成しました。

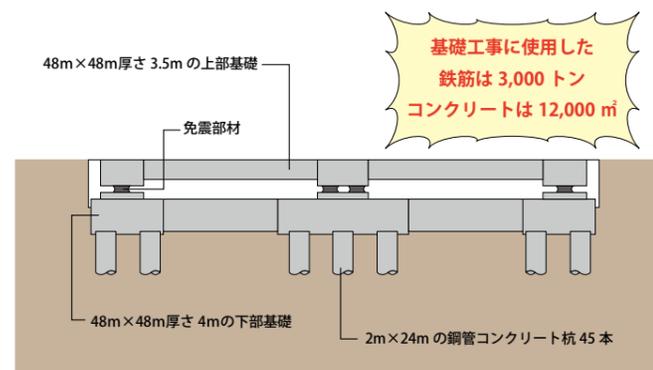
現在の建築基準法では、60mを超える高さの

工作物(遊戯施設)は、高層ビルと同じ超高層評定及び国土交通省の大臣認定が必要と定められています。当初の計画では耐震設計でしたが、それでは観覧車本体の構造強度が確保できないと判断し免震構造を採用しました。

基礎工事には、直径2m、長さ24mの場所打ち鋼管コンクリート杭を45本打設、その上に48m四方、厚さ4mの下部基礎を施工、その上に10基の免震層を施工し、さらにその免震層の上に48m四方、厚さ3.5mの上部基礎を施工しました。地震発生時にはこの免震層が揺れを吸収し、観覧車自体はほぼ動かないという構造になっています。



EXPOCITYのREDHORSE OSAKA WHEEL



国内グループ会社の取り組み

● 津波避難訓練を行いました

2016年11月10日、阪和流通センター大阪(株)が協力会社とともに「津波避難訓練」を実施しました。今回の訓練は、今後予測される南海トラフ地震発生に伴う、津波到達に対する避難行動に照準を合わせて行われました。参加者は、避難行動基準書を基に堺市が認定する避難基地エリアの事業所まで、実際に徒歩で避難移動しました。



避難指示放送の訓練



避難場所への移動訓練

海外コイルセンターの取り組み

● 全体工場長会議で「第1回小集団活動発表会」を開催

2016年11月17日、18日の両日、阪和スチールサービス(株)で「第14回全体工場長会議」を開催し、国内外の関連会社16社が参加しました。

2日目の18日には、「第1回小集団活動発表会」を開催し、当社関係者、国内外のコイルセンター6社などから約60名が参加し、発表が行われました。

海外コイルセンターでは2015年から課題となっている「人材育成」を目的として、現場力を向上するための小集団活動を推進し、1年の活動期間を経て今回の発表に至りました。発表後は参加者から(多言語での)活発な質疑応答があり、その後、審査・表彰式が行われました。



第14回 スチールサービス事業関連全体工場長会議に参加した皆さん



第1回 小集団活動発表会 会場の様子



参加した全チームが表彰されました。写真は、芹澤副社長(左)と阪和鋼板加工(東莞)有限公司の発表者

● 第1回小集団活動発表会の発表テーマと表彰

会社名	発表テーマ	表彰
長富不銹鋼中心(蘇州)有限公司	CS コイルバック作業効率 UP と安全改善	CC 社長賞
阪和鋼板加工(東莞)有限公司	トリミング 15 ミリ以上発生量の低減 ほか	特別賞
阪和鋼板加工(江西)有限公司	細幅コイル—結束作業の改善	芹澤副社長賞
HANWA STEEL SERVICE (THAILAND)CO.,LTD.	生産効率の向上—スリッター 3 号機ラインスピード UP	特別賞
PT. HANWA STEEL SERVICE INDONESIA	「作業手順とヒヤリハット」で継続的なトレーニング方法	畠中常務賞
阪和スチールサービス(株)	パットカスの飛散ゼロ化	CC 社長賞

※CC: コイルセンター

# 企業統治

阪和興業は、「法令遵守の徹底」「透明度の高い経営、積極的な情報開示」「財務面での高い健全性の維持」というCSRの基本的な考え方を守り、良き企業市民として社会的責務を果たし、ステークホルダーから「価値ある企業」との評価と支持を得られるために努力を続けています。

## ■ コーポレート・ガバナンスの確立

当社の経営体制は、監査役会設置会社の形態を採用しています。社長を議長とし社外取締役2名を含む取締役会は、当社グループの重要な経営方針を決定するとともに、社長を議長とし執行役員全員からなる経営会議以下の業務執行機関の業務活動を管理・監督します。社外監査役3名を含む監査役会は、取締役会及び業務執行機関全体を監視・監査しています。

また、社外取締役2名を含む役員評価委員会では取締役、執行役員による相互評価により各役員の評価を行い、委員会の選任会議及び報酬会議において役員人事及び役員報酬を適正に決定しています。投資等審査委員会、コンプライアンス委員会等の各種委員会による経営事項の事前審査の仕組みにより、より効果的なガバナンス体制を確立しています。

### 内部統制経営者評価 2016年度年間スケジュール

評価計画立案・決定	2016年3月評価計画立案 3月経営会議にて決定		
1. 社員への啓発活動	開催時期	適時実施	
	主な内容	I. 内部統制に関する法律 II. 内部統制とは？ III. 内部統制報告制度への対応 IV. HKQCとは	
	参加者	① 新任課長 ② 関係部署 ③ 新入社員	
2. 評価内容	テスト項目	阪和興業本体及びグループ会社のテスト実施時期	
	(1) 全社統制	整備状況	2016年8月～11月
		運用状況	2017年3月末
	(2) 決算・財務報告書作成プロセス統制	整備状況	2016年10月～12月
		運用状況	2017年5月末
	(3) IT統制	整備状況	2016年10月～2017年1月
		運用状況	2017年3月末
	(4) 業務プロセス統制	整備状況	【営業部門】2016年7月～9月
		運用状況	【営業部門】第1回 2016年10月～11月 第2回 2017年2月～5月
		実地棚卸	2017年3月末
(5) 評価結果	まとめ	2017年4月～5月	
3. 外部監査の実施	実施期間	2016年7月～2017年6月	
	重点チェック項目	会社の経営者評価結果が適正か	
	監査対象	① 阪和興業本体 ② 国内外全ての連結子会社	

## ■ コーポレートガバナンス・コードへの対応

実効的なコーポレート・ガバナンスの実現に資する主要な原則として、コーポレートガバナンス・コードが制定され、2015年6月に施行されました。当社は、コーポレート・ガバナンスに関する報告書の開示に加えて、現時点での当社の在りようとその考え方をステークホルダーにご理解いただくことを目的として、コードの全73項目に対する対応方針を独自に当社ウェブサイトに掲載しています。今後も、ステークホルダーと当社の間でガバナンスに関する積極的な対話を通じて、長期的・継続的に企業価値の向上に取り組んでいきます。

## ■ 内部統制

当社は2006年5月、会社法の適用により「内部統制システムの構築・運用に関する基本方針」を取締役会で策定、2008年4月からは、金融商品取引法の適用による「財務報告に係る内部統制報告制度」に対応しています。上場企業として信頼性のある財務報告を行うために、内部統制システムの整備及び社員への啓発活動を行い、適切な情報開示を実施しています。このような取り組みから、当社及びグループ会社の社員の意識は向上しており、透明性に優れた経営体制を確立しています。

### ● 「財務報告に係る内部統制報告制度」の評価

監査部は経営会議の直轄部署として、財務報告に係る内部統制の整備・運用状況の有効性評価・検証を行います。改善を促すために必要に応じて、経営会議に評価・検証の内容を報告しています。また、監査部は独立性が確保された部署として、当社の情報の共有化及び業務の効率化も図っています。

## ■ 内部監査

監査部は、リスク管理の実効状況を検証するため、国内外の拠点及びグループ会社に対し、内部監査を行います。その結果は適宜、経営会議及び社長に直接報告しています。

## ■ HKQC

HKQC (Hanwa Knowledge Quality Control) は、製造業で実施しているQC (品質管理) 運動を商社業務に適用した当社独自の取り組みで、2015年12月、監査部に専門部門を設置しました。法対応の「内部統制制度」をさらに深化させ、阪和グループの営業現場レベルに落とし込んでいくことに加え、リスクを見える化することで、社員個々人の意識づけによるミスの軽減、ベストプラクティス抽出による業務効率化を目的としています。具体的には、各部門がミスの起きやすい作業など潜在リスクを洗い出し、リスクの位置を業務フロー図に落とし込み、ダブル、トリプルチェック体制を構築します。これらの取り組みにより当社へのメーカー、ユーザーからの信頼を高めていきます。

## ■ コンプライアンス

### 企業倫理規範

1. 法令及び社会的規範の遵守
2. 公正な企業活動
3. 産業社会への貢献
4. 積極的な情報開示
5. 環境への配慮
6. 国際社会との調和
7. 自由闊達な職場環境の確立
8. 「良き企業市民」として積極的な社会貢献活動の推進
9. 倫理規範の周知徹底
10. 適正な企業運営

当社では、「企業倫理理念」及び「企業倫理規範」を制定し、コンプライアンスを推進するコンプライアンス委員会を設置しています。同委員会は「コンプライアンス・マニュアル」を策定し、全役員に冊子として配布し、コンプライアンスの意義を十分に理解し、法令及び社会規範を遵守した行動を取る

ことで、企業としてのCSRの実践に努めています。

当社では「オープン化」「見える化」を推進し、不祥事の発生を未然に防ぐ体制を整えています。

「コンプライアンス・マニュアル」を全役員に配布しています



## ■ 個人情報保護ポリシー

個人情報の適切な管理を企業の社会的責任の一環としてとらえ、当社では個人情報の漏洩や不正使用を防止することを目的として、「個人情報保護規定」「個人情報保護マニュアル」を定め、役職員に周知徹底し遵守しています。

## ■ 危機管理対策

当社では、国内外の役職員及びグループ会社役職員、またその家族の安全、自社の資産、業務の推進に大きな被害をもたらす重大な危機に備えています。危機発生の際にはその被害を最小化し、役職員及びその家族の安全の確保を優先して、中核事業の継続、再開するために必要な体制を確立しています。東日本大震災の経験を生かし、2011年5月に従来の「防災マニュアル」の見直しを行いました。危機管理に対する基本方針や国内外の各種危機への備え、有事の危機対策本部の設置等を定めた「危機管理マニュアル」を制定し、毎年防災訓練時には対応訓練を行っています。

さらには、全部門で「大規模災害用BCPマニュアル」を制定し、大規模災害時の事業継続計画を策し、毎年見直しを行っています。また、緊急時の対応として、大型蓄電池の配備、衛星電話の導入、OA機器転倒防止、備蓄品管理等を継続して行っています。



防災訓練の様子

# より良い職場作りへの取り組み

「商社は人なり—商社は人材こそが財産」「企業の繁栄と社員の幸福は車の両輪」。  
 創業者である北 二郎の言葉です。阪和興業は顧客第一主義を貫き、お客様とともに繁栄していくために、  
 縦割り組織を超えた横の連携や、お客様とのパートナーシップなどから生まれる  
 改善や提案のできる人材育成に力を注いでいます。

## ■ プロフェッショナル&グローバルな人材を育成しています

当社では年々海外拠点が増えるなか、海外トレーニー制度、語学研修、貿易実務研修、AMG研修、法務研修などさまざまな人材研修を行うことで、国内外問わず、国際感覚豊かな「プロフェッショナル&グローバル」な人材育成を行っています。

海外実務のプロフェッショナルを育てることを目的とした「海外トレーニー制度」では、社内の推薦を得た候補者から選出して半年間海外での実務研修を実施しています。2016年度は海外トレーニー 8期生がフィリピン・マニラで研修を受けました。また、2016年度には、約380人の社員を対象に英語力向上の研修を実施しました。現在42拠点に124人が駐在、アムステルダムには、女性が駐在し現地スタッフとともに活動をしています。



貿易実務研修



AMG研修

## ■ 多様な働き方を実現するダイバーシティの推進

当社では、ダイバーシティ推進室を中心にダイバーシティの取り組みが行われています。「社員一人ひとりがさまざまな境遇や価値観を認め合い、多様な働き方を実現できる環境をつくること」と位置づけ、全ての社員が参画する経営課題としています。特に女性総合職、外国籍の新入社員に焦点をあて、メンター制度を設け、配属部署でない他部署の先輩がメンタル面のフォローをし、働きやすい環境を作ることを推進しています。



メンター制度説明会

## 海外トレーニー制度 研修を終えて

鋼板建材部  
 原田将享



半年間PT.HANWA INDONESIAに海外トレーニーとして滞在させていただき、主にインドネシアを中心にASEAN各国で鉄鋼セクションのフォローと新商材での新規活動を中心に活動させていただきました。

言葉や習慣・文化の違いを肌で感じながら、潜在的なビジネスチャンスは多くあること、そこに向けての壁は高いことを体験しました。

今後は今回の経験を活かし、国内の鋼板建材スキームを海外へ、海外で得た経験を国内へ横展開し、「東南アジアにもう一つの阪和を」のために尽力していきます。

## ナショナルスタッフ研修を開催

2017年2月28日から3月2日の3日間、東京本社で第3回ナショナルスタッフ研修が開催され、7カ国10拠点から総勢19名のナショナルスタッフが参加しました。研修では法務審査部による財務分析のケーススタディをメインとした与信研修、監査部による内部統制や

HKQCについての講義が行われました。2日目は、「次世代のリーダー育成」をテーマに、外部講師による日本の文化や商習慣の詳しい説明が行われました。希望者には3日目に新日鐵住金(株)・君津製鉄所への見学プログラムも準備し半数以上が参加しました。



研修に参加したナショナルスタッフたち



研修の様子



研修の様子

### ● 育児・介護と仕事の両立支援

育児・介護などのライフイベントと仕事の両立がしやすいよう制度面の充実を図っています。育児短時間勤務者が人事部に所属し、各部署から要請のあった業務に従事する業務サポートチームを作りました。現在数名がこのチームに所属し、現業復帰までの短時間勤務を有効に活用しています。

### ● 障がい者雇用

障がいを持つ社員が能力を発揮できる配置を実施しており、障がい者雇用率を遵守すべく、採用活動に力を入れています。

## ■ 業務スキル、メンタルともに“骨太な人材”を育てる環境を整備

当社では、入社から半年間は配属部署の先輩が業務指導員として就き、OJTで指導していきます。業務スキルだけでなくメンタル面もフォローし“骨太な人材”の育成をしています。また、管理職研修ではメンタルヘルスに関わる知識や対応法を学び、よりよい職場環境を築けるようにしています。セクハラ・パワハラ対策は個別に相談できるオフィスSOS相談窓口が開かれています。

# 「良き企業市民」としての社会貢献活動

阪和興業及びグループ会社は「社会の期待に応える企業」として、  
また、良き企業市民として国際社会、地域社会に広く貢献するためにさまざまな活動を行っています。

## 災害支援・国際貢献、自然保護への貢献

阪和興業及びグループ会社は、日本経団連、関西経済連合会、東京／大阪商工会議所、日本貿易会、日本赤十字社などを窓口とした寄付活動を通じて、熊本地震、国内外の災害救済、国際支援を行っています。また国際社会貢献センター（ABIC）へ参加し途上国に対する経済援助、外国企業の対日ビジネス支援、在日留学生の支援など国際的な社会貢献活動を行っています。さらに国内の芸術・スポーツ・文化活動に対して寄付活動を通じて支援しています。



新日本フィルハーモニー交響楽団などの文化活動を支援しています



JR名古屋駅タワーズガーデン特設会場で  
行われた名古屋駅新能

### ● 熊本地震への支援

- ・ IPPO IPPO NIPPONプロジェクト熊本への参画



IPPO IPPO NIPPONプロジェクトを通じ、熊本の復興を支援しています

### ● 芸術・スポーツ・教育・文化活動への支援

- ・ 官民協働海外留学支援制度
- ・ がん研パワーアッププロジェクト
- ・ 名古屋駅新能 (名古屋駅新能実行委員会)
- ・ 日本交響楽振興財団
- ・ 新日本フィルハーモニー交響楽団
- ・ 日本フィルハーモニー交響楽団
- ・ スポーツ振興資金財団
- ・ 日本トレッキング協会
- ・ 絆甲子園野球大会
- ・ 全日本柔道連盟
- ・ 徳川黎明会
- ・ 名古屋フィルハーモニー交響楽団
- ・ OSAKA2020夢プログラム
- ・ 日本貿易会主催セミナーでの講演 (北修爾会長)
- ・ 大阪市立大学、立命館大学での講演 (古川弘成社長)
- ・ 中学生職場体験の受け入れ協力



当社は、トレッキング活動を通じて心身を健やかに保ち、  
楽しみながら深く学ぶという  
日本トレッキング協会の活動に賛同しています



当社は中学生の職場体験に  
協力しました。茨城県土浦  
市立土浦第二中学校の生徒  
の皆さんが「働くとは？」を  
テーマに東京本社を訪問。各  
部署の社員が仕事内容など  
を説明しました



社会人、学生に向けて講演活動を行っています



### ● 地域社会への貢献

- ・ つきじ獅子祭への協賛及び参加
- ・ 富岡八幡宮例大祭への参加
- ・ 清掃活動「クリーン大阪」への参加
- ・ 富岡町会清掃活動への参加 (阪和興業門前仲町寮町内行事)
- ・ 日本赤十字社献血運動への協力
- ・ 全国交通安全運動への参加 (築地警察署)
- ・ 飲酒運転撲滅キャンペーンへの参加 (築地警察署)
- ・ 大阪市中央消防署消防破壊訓練への協力 (旧大阪本社ビル)



朝日写真ニュース掲示版を小中学校へ寄贈  
(阪和エコスチール㈱)



東京本社のある中央区築地で  
行われたつきじ獅子祭に協賛し、  
社員が参加しました



㈱ハローズでは障がいをお持ちの方を招待する  
「ふれあいボウリング」を開催しました



ABIC主催のバザー



「クリーン大阪」に  
大阪本社から46名が参加しました

## グループ会社の社会貢献活動

阪和流通センター各社、阪和スチールサービス㈱、㈱トーハンスチールの清掃活動をはじめ、阪和エコスチール㈱の小中学校への朝日写真ニュース掲示板の寄贈、㈱ハローズの障がいをお持ちの方を招待する「ふれあいボウリング」の開催など、さまざまな社会貢献活動を積極的に行っています。

# 環境マネジメント

阪和興業は「次世代へ豊かな地球環境を引き継ぐべく、持続可能な発展の実現に向けて最善の努力を行うものとする」と環境方針の基本理念に掲げています。そのため当社では「業績改善につながる目標を立てて実行すれば、結果的に環境負荷低減につながる」という考え方をベースに、社員一人ひとりが意識して業務を推進しています。

## 環境方針

### 基本理念

阪和興業株式会社及び阪和興業グループ会社は、HKQC (Hanwa Knowledge Quality Control) を基本として日々の業務の品質向上に努め、また「フットワーク、チームワーク、ネットワーク」をモットーに、あらゆる事業活動を通して「存在感のある商社」として次世代へ豊かな地球環境を引き継ぐべく、持続可能な発展の実現に向けて最善の努力を行うものとする。

### 行動指針

#### 1. 環境マネジメントシステムの継続的改善

この環境方針のもとに環境目的・目標を設定し、見直しを行い、環境マネジメントシステムの運用と継続的改善に努める。

#### 2. 環境関連法規の遵守

環境に関する、国際条約、日本及び関係国の法令・規制、その他当社が同意した業界等の申し合わせ、取決め等を遵守する。

#### 3. 循環型経済社会システムへの寄与

リサイクル事業等に積極的に取組み、循環型経済社会システムの実現に寄与する。

#### 4. 資源・エネルギーの有効活用

地球環境の保全に配慮し、資源、エネルギーを有効活用する。

#### 5. 自然環境への配慮

環境負荷の低減を常に考慮し汚染の予防に努めるとともに、生物多様性の保全・持続可能な利用の重要性を認識し、自然環境への配慮に努める。

#### 6. 啓発活動の推進

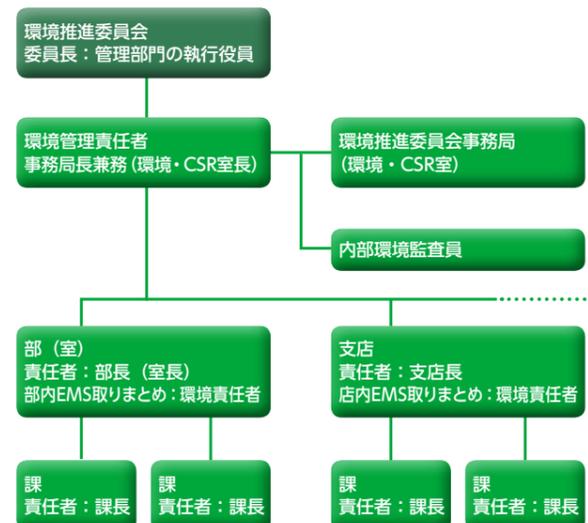
環境保全の重要性を認識させるため、この方針を社員に周知徹底し、かつ積極的に啓発活動を行う。なおこの環境方針は社外にも公開する。

2016年5月31日 改定

## ■ 環境マネジメント体制

当社は環境推進委員会を設置し、管理部門の執行役員をその委員長とする環境マネジメント体制を構築し、環境マネジメントシステム (EMS) を運用しています。環境推進委員会によって任命された環境管理責任者は、社内EMSの維持管理の責任を担っております。環境推進委員会の事務局及び環境管理責任者のサポート組織として、環境・CSR室を設置しています。内部環境監査員は、審査登録会社が行っている内部監査員研修コース修了者から選出し、年2回内部監査を実施しています。各部・支店・営業所にはそれぞれ、環境責任者を置き、EMSに関する実務及び部内教育を推進しています。

### 環境マネジメント体制図



## 社会の繁栄と当社グループの持続的な成長のために

ISO環境管理責任者 泰道正明



阪和興業グループは創業当時から、お取引先様の信頼を得ることを第一に、たゆまぬ商社活動を通じて社会に貢献することを目標としてまいりました。その結果として社員を含むあらゆるステークホルダーの豊かさを追求することに寄与したと考えています。さらなるCSR活動の一環として、2000年4月にISO14001の認証を取得しました。その後「環境・CSR室」を設置し、その持続的な啓発活動を通じて、環境負荷低減や自然環境保全に寄与する事業活動をさらに継続しています。今後も、当社の取り組みが社会の繁栄に寄与し、なおかつ当社グループの持続的な成長につながれば幸いです。

## ■ 内部環境監査

2016年7月7日～15日に29部門、11月10日～18日に23部門の内部環境監査を行いました。目標・計画において、達成のための方策が明確になっているか、適切な検証がなされているか、関連法規を含むリスクの洗い出し及び遵守手順・遵守評価が適切か、前回の内部環境監査及び外部審査の指摘事項の有無及び是正の確認などに重点を置き、チェックを行いました。



内部環境監査の様子

## ■ 外部審査

LRQA社による外部審査が、2016年8月25日、26日、29日～31日に16部門に対して行われました。また、2017年2月20日～21日に7部門に対して行われました。外部審査においてはEMSの有効性に重点を置いて審査をしていただきました。

## ■ マネジメントレビュー

2017年3月9日の環境推進委員会で、2016年度の活動に対するマネジメントレビューを行いました。

## ■ 啓発活動

EMSの運用にあたり、当社では毎年定期的に新任課長、新入社員、新任環境責任者を対象に環境教育を実施しています。

2016年は、3月22日に新任課長、4月7日に新入社員、6月18日・21日に新環境責任者に対して、ISO14001の規格の概要、環境マネジメントマニュアルについて、法令の遵守、危機管理、資源の有効利用、業務改善などを重点的に説明しました。

また、2016年にISO14001 / 2015に移行するにあたり、環境責任者に新規格の説明会を行いました。



新入社員を対象とした環境教育の様子

## ● ISO14001 の認証 取得状況

国内事業所……………19拠点

国内グループ会社…3社

海外グループ会社…17社

※海外グループ会社は各社毎にEMSを構築し、認証を取得しています。



ISO14001の登録証  
(国内19事業所、国内グループ会社3社)

# 2016年度の環境活動のまとめ

## ● 2016年度環境活動

行動指針	目的・目標	2016年度の主な取り組み
EMSの継続的改善	EMSの継続的改善 新規格への移行及び運用	内部監査及び外部監査の実施 環境責任者に対する新規格説明会
環境関連法規の遵守	環境に関する国際条約・日本及び関係国の 法令規制等の遵守 業界取り決め、ガイドライン等の遵守	パーゼル条約（パーゼル法）遵守 エネルギー使用の合理化に関する法律遵守 廃棄物の処理及び清掃に関する法律遵守 経団連、日本貿易会環境自主行動計画に参加
循環型経済社会 システムへの寄与	リサイクル事業推進	鉄スクラップリサイクル推進 中古鋼材の販売 非鉄金属リサイクル推進 古紙リサイクル推進 鉄鋼スラッグの提案、販売
資源・エネルギーの 有効活用	再生可能エネルギー関連事業への取り組み	バイオマス燃料の開発推進 太陽光発電、風力発電関連部材の供給
自然環境への配慮	国内事業所におけるCO <sub>2</sub> 排出量削減	節電対策の実施
	海洋汚染対策	船橋油槽所において、海洋汚染防止対策実施
	汚染対策資材の拡販	高耐食性メッキ鋼板の拡販 スチール製パレットの拡販 完全防水断熱屋根「シュア・ルーフ」、緑化舗装用ブロック「グラッサム」等環境関連資材の拡販
	生物多様性への配慮	SGEC-CoC認証を取得し、関連資材の取扱拡大
啓発活動の推進	社員への環境に関する啓発活動の推進	新任課長、新入社員、新環境責任者に対する環境教育 メールマガジンにて社員への環境関連情報発信

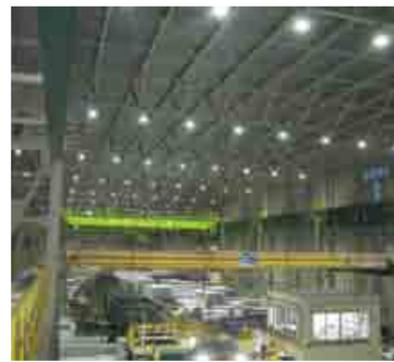
## ■ 全面LED化工事が完了

阪和流通センター大阪(株)では、2016年11月から着手していたセンター全面LED照明化工事を完了しました。LED化による照明消費電力削減効果は50.8%を

見込んでいます。2016年度から当センターでは、新日鉄住金エンジニアリング(株)の新電力を採用し電力コストは従来比約5%の低減効果が表れています。



倉庫内



倉庫内



事務所内

## ■ 地球温暖化防止対策 (CO<sub>2</sub>の削減)

### ● 荷主としての取り組み

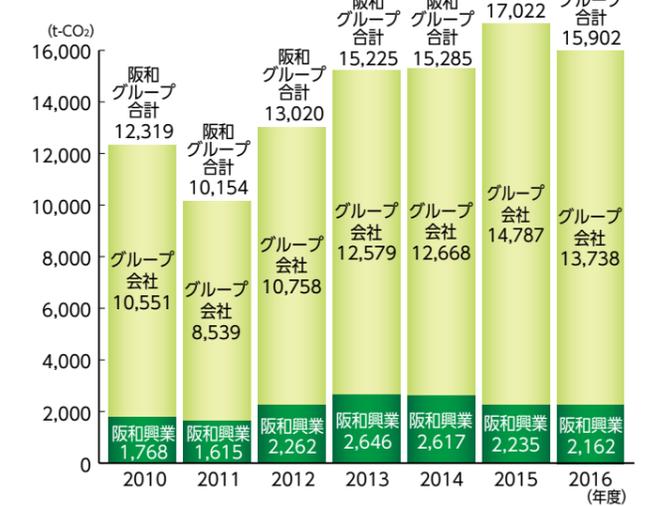
当社は、流通に携わる企業として、2006年度から輸送時のエネルギー使用量削減に努めています。物流関連の当社グループ会社である、阪和流通センター

東京(株)、阪和流通センター大阪(株)、阪和流通センター名古屋(株)の協力のもと、輸送の合理化、委託運送会社への協力依頼等の活動を行っています。

### ● 輸送時発生CO<sub>2</sub>量とエネルギー消費原単位の推移



### ● 国内事業所におけるCO<sub>2</sub>排出量



### ● オフィスでの取り組み

当社は、環境の日(6月5日)を含む6月を環境月間として全社で環境に対する推進運動を実施するとともに、CO<sub>2</sub>削減のため、オフィスでの省エネルギーに努めています。

に、CO<sub>2</sub>削減のため、オフィスでの省エネルギーに努めています。

#### オフィスでの主な実施項目

- ・節電対策の実施 (照明の間引き、こまめな消灯等)
- ・毎週水曜日をファミリーデーとし早帰り運動の実施
- ・クールビズの実施 (5月～10月)
- ・センサーライトの導入促進、高効率照明の導入、LED照明の導入
- ・カード認証式複合機の使用により、OA機器の集約化を実施
- ・社内システムのペーパーレスの推進
- ・TV会議システム活用による出張の削減
- ・営業車にハイブリッド車の導入促進
- ・「森の町内会」への登録。社内報などに間伐に寄与した紙を使用
- ・社内メールマガジンによる啓発活動の実施



ハイブリッド車の導入を促進しています

## ■ 太陽光パネルの増設

当社は、阪和流通センター大阪(株)の広大な屋上を利用し、太陽光パネルを設置しています。

北棟で約3,700枚、南棟で約3,800枚の太陽光パネルは最大1.4メガWの発電が可能です。太陽光発電による再生可能エネルギーを創出することにより、CO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。



南棟(写真手前)に設置された太陽光発電パネル

## ■ HK 淀屋橋ガーデンアベニューが環境配慮ビルとして表彰される

積水ハウス(株)と阪和興業の共同事業であるHK淀屋橋ガーデンアベニューが「平成28年度おおさか環境にやさしい建築賞」を受賞しました。この賞は、大阪府・大阪市の環境に配慮した建築物の普及促進及び府民の意識啓発を図ることを目的としています。

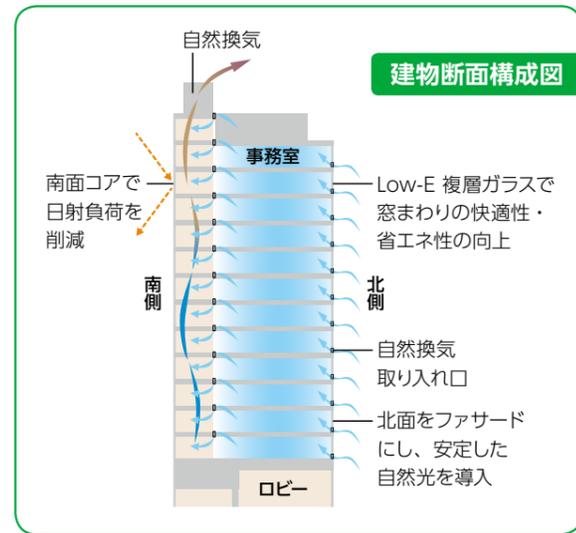
当ビルは、南側は日射を遮断することで空調負担を低減。北側の天井まである大型ガラスからは安定的な自然光を確保しつつ、遮熱高断熱複層ガラスを採用することで空調効果を高めています。屋上には温度差による換気装置がついており、各フロアに設けた換気口がどのくらい開いているか感知し自動開閉します。階段室の上下の温度差を利用した自然換気も可能です。これらの機能から、標準的なオフィスビルより消費エネルギーが20%程度節約できるといわれています。照明は省エネ効果の高いLED照明を導入しています。



・延床面積 16,971㎡ (S造一部SRC造、地上14階・地下1階)  
 ・CASBEE 評価：A ランク/ BEE 値 1.5  
 ・重点評価：CO<sub>2</sub>削減 4.0、省エネ対策 4.0、みどり・ヒートアイランド対策 2.0



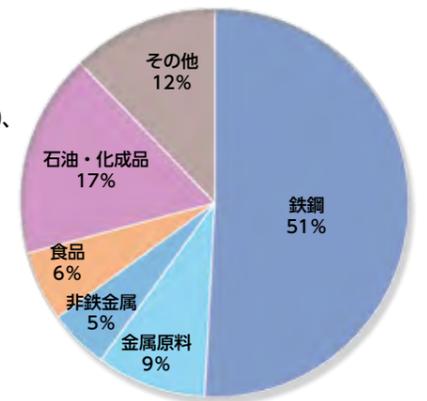
アウトフレーム構造でオフィススペースには柱が1本もないため、フレキシブルな執務スペースとなっています



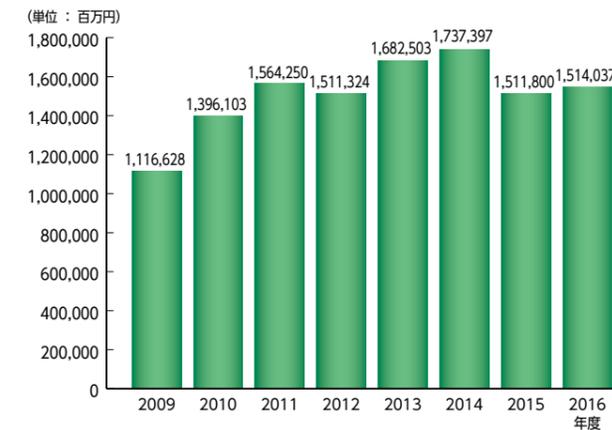
## 会社概要 (2017年4月1日現在)

商号	阪和興業株式会社
代表者	取締役会長 北 修爾 代表取締役社長 古川弘成
設立	昭和22年(1947年)4月1日
資本金	45,651百万円
連結従業員数	3,155名(2017年3月31日現在)
営業品目	鉄鋼、鉄鋼原料、建材、非鉄金属、金属原料、特殊金属、機械、石油、化成品、食品、木材、セメント等の国内販売及び輸出入
国内事業所	大阪本社、東京本社、名古屋支社、北海道支店、東北支店、北関東支店、新潟支店、中国支店、九州支店、八戸営業所、水戸営業所、厚木営業所、静岡営業所、岡山営業所、福山営業所、沖縄営業所、いわき事務所、北陸事務所、和歌山事務所
海外事業所	[北米・中南米] ニューヨーク、シカゴ、ヒューストン、シアトル、ロサンゼルス、サンディエゴ、バンクーバー、グアム、メキシコシティ、セラヤ、ボゴタ、サンティアゴ [アジア] ソウル、釜山、北京、天津、青島、大連、上海、太倉、重慶、武漢、江西、福州、広州、東莞、中山、香港、台北、高雄、バンコク、チョンブリ、ヤンゴン、ハノイ、ホーチミン、クアラルンプール、シンガポール、ジャカルタ、マニラ、ムンバイ、ニューデリー、チェンナイ [欧州・中東・アフリカ] ロンドン、ウィーン、アムステルダム、クウェート、ダンマン、ジェッダ、ドバイ、ヨハネスブルグ、イスタンブール
主な国内グループ会社	阪和流通センター東京(株)、阪和流通センター大阪(株)、阪和流通センター名古屋(株)、エスケーエンジニアリング(株)、(株)ハローズ、阪和スチールサービス(株)、阪和エコスチール(株)、すばる鋼材(株)、三栄金属(株)、昭和メタル(株)、トーヨーエナジー(株)、(株)トーハンスチール、正起金属加工(株)、丸本本間水産(株)、ハンワフーズ(株) 他
主な海外グループ会社	HANWA AMERICAN CORP. 阪和(香港)有限公司、阪和(上海)管理有限公司 長富不銹鋼中心(蘇州)有限公司 HANWA THAILAND CO.,LTD. HANWA STEEL SERVICE (THAILAND) CO.,LTD. HANWA SINGAPORE (PRIVATE) LTD. HANWA CANADA CORP.、阪和鋼板加工(東莞)有限公司 PT.HANWA STEEL SERVICE INDONESIA 他

部門別売上高構成比  
(2016年4月1日～2017年3月31日)



### 連結売上高推移



### 連結経常利益推移・連結当期純利益推移



### 編集方針

本報告書は、阪和興業の企業理念に基づく社会的責任に対する姿勢と行動、環境方針に基づく環境負荷低減への目標設定と達成への努力及び環境に関わる事業・取扱商品を、ステークホルダーの皆様へ率直かつわかりやすくお伝えするために作成いたしました。忌憚なきご意見を賜われれば幸いです。

報告対象 阪和興業及びグループ会社  
 対象期間 2016年4月1日から2017年3月31日(一部記述には直近のトピックス、過去の経緯、実績、将来の見通しなどについても記載しています)  
 参考ガイドライン 環境省「環境報告ガイドライン」2007年版参照

2,000



### 「森の町内会」から印刷紙を購入し健全な森林づくりをサポート

当社では、間伐と間伐材の有効利用を促進して健全な森づくりに貢献する「森の町内会」から間伐に寄与する紙を購入し、『環境・CSR報告書』や社内報『年輪』(年4回発行)などの印刷物に使用しています。2008年から続くこの活動を今後も継続することで、サポート企業として健全な森づくりに貢献していきます。



### 営業車管理システムを導入

当社は、営業車管理システム「テレマティクスサービス」を導入し、安全運転の周知、エコドライブの推進に役立てています。GPS機能付き装置を搭載するこのシステムは、走行距離、車両位置、燃費情報、加減速などの走行データを取得することができ、設定した速度を超えた場合や、急停止・急発進など危険挙動情報をリアルタイムで管理担当者がメールで知ることができます。

